

とろき  
轟おおのほらちく  
大野原地区コミュニティ宮田さんの花畑  
(5月初旬)

事務局だより・5月号

初夏の候、早や衣替えの季節となりました。皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃から、コミュニティの活動にご協力頂きまして誠に有難うございます。

さて5月は連休もありましたが、いかがでしたか？離れて暮らすご家族の帰省で賑やかに過ごされた方、ずっと勤務だった方、「だんじゃなか」くらい農作業や草払いに追われた方…それぞれにお忙しかったことと思います。お疲れ様でした。お疲れ様と言えば先日、夜中になっても私は仕事が終わらず、気分転換しようと事務所の玄関を勢いよく開けた時、勤めから家路を急ぐ歩道の女性と暗闇の中、(おそらく)対面になりました。きっと驚かせたと思い、慌てて「こんばんは」と声をかけると、「遅くまで残業？お姉さんも気をつけなさいよ、女なんだから。」と言。あつという間の早歩きの話でしたが、何だかとても粋でした。もう見えなくなりかけたその人に、「ありがとうございます、お疲れ様でした！」と声を大にすると、「ありがとうー！」ハスキーな声と速足の音が返ってきました。

さあ、私も帰ろうか…。

ほんの15秒間くらいでしたが、これぞ会話の妙というのか、疲れた心身がぼかぼかになった晩でした。

さて話はやっと本題へ。今回は、お茶にまつわる話題を中心にお送りします。

### 上不動地区の新兵衛さんまつりと宮田さんのシャクナゲ園

よしむら しんべえおう こうせき  
吉村 新兵衛翁の功績をしのぶ頌徳碑

味よし色よし、うれしの茶



シャクナゲを見上げれば虚空蔵山の烏帽子が望める

平成29年4月14日(金)の午前中、上不動地区(大茶樹付近)で茶祖・新兵衛さんを祀る祭事が行われました。新兵衛さんは1603年佐賀県白石に佐賀藩士の子として生まれ、やがて佐賀初代藩主・鍋島勝茂に仕えた人物です。任務は、警備と森林監視で、嬉野に移住し不動山皿谷に茶園を開きお茶の栽培を奨励しました。そのお茶が現在まで住民の生業となり、暮らしを支えて来ました。茶祖としての功績が称えられているのはもちろんなのですが、私はこのおまつりを通して2つのことに感銘を受けました。1つは、新兵衛さんの現職中の刑罰のピンチを救ったのは、お父さんの生前の積善によるものだったこと。2つ目は、360年前に亡くなったご先祖様のご供養が今も地区の方々の手で脈々と受け継がれていることです。碑は急峻な坂を上った場所にあり、昔はまつりの後の直会の席を設けるのにも人力だったと聞いて気が遠くなりました。今でこそ人力は軽トラに代わりましたが、私にはその上って来る軽トラが今にも裏返しそに見え、ヒヤヒヤする程の坂だったので。そんな素人の心配をよそに直会の席は手際良く準備され、地区の女性が寄って煮炊きしてくれた筍料理を御馳走になりました。昔風に言うならば、一仕事終えた男衆は宴に興じ、女衆は甲斐甲斐しくお茶の世話をするという様子です。毎年ここまでののは大変な作業だと思います。けれど、新兵衛さんはこの賑わいを目を細めて愛でているような気がしました。亡き父の善行が息子を守ったように、この地区の方々のご家族の日常の平穩無事を新兵衛さんが見守ってくれていそうな、ほのぼのとした気分を山を後にしました。

帰りにシャクナゲを見て行きなさい、道を下っていけばわかる、と食事中に言われていたので、漫然と道を下るとお宮の辺りのピンク色ののぼりが目に入り、本当に、行けばわかりました。当時は4月で、シャクナゲは最高の見頃でした。宮田英敏さんと奥様が、お茶とお米等の家業の傍ら、丹精込めて手入れをされた、まさに花園です。

芝桜もじゅうたんのようなようでした。そして宮田さんとは後日談があります。が、もう紙面がありませんので、続きは再び来月に先延ばしさせて頂きます。どうかご了承下さい。こんなことでは真面目な新兵衛さんに喝を入れられそうです。

なお、裏面は末永忠典会長編纂の文献です。ぜひご覧下さい。



## うれしの茶祖 吉村新兵衛 (4/14 まつり)

吉村新兵衛翁頌徳碑 (前広場)

参考文献「嬉野町史」「不動郷土誌」等

平成 29 年 4 月作成 文責 末永忠典

吉村新兵衛は「嬉野茶」の産業化を振興した。  
佐賀藩士大串太郎右衛門の子として生まれる。  
太郎右衛門は 1573 年龍造寺隆信の須古城(城主  
平井経治・白石支配)攻めに加わるも負け戦とな  
り、白石吉村の天満宮に逃げ込み助かる。神明に  
感謝して姓を「吉村」に家紋を「梅鉢」に改め  
天満宮を再建した。1574 年再び籠城し須古城を落  
とした。



新兵衛は佐賀初代藩主鍋島勝茂に仕え、白石南部  
の庄屋を務めた後、俵坂番所に伴う松浦地方西口通路の警備と山  
林取り締まりにあたり嬉野へ移住した。藩の森林監視官として駐  
在し不動山皿屋谷に茶園を開き栽培を奨励した。

皿屋谷(標高 210m)の「大茶樹」(樹高 4m 樹齢 340 年・国の天然  
記念物 1926(大正 15)年指定)は、今、尚存して嬉野茶の声価を有  
名ならしめた。これが佐賀県特産「嬉野茶」の始まりでその功を  
讃え明治 18 年農商務大臣西郷 従 道により追賞証を授与された。

1603 年(慶長 8)新兵衛白石辺田村に生まれる。

1650 年(慶安 3)新兵衛は背振山から茶樹を取り寄せ 1651 年不動山に  
播いたのが始まりと言われ、今日の製茶を見ることになっ  
た。新兵衛は西口警備任務上、往来札に関し落度ありご法  
度に触れ切腹を仰せ付けられたが、父太郎右衛門・祖父五  
郎右衛門の忠勤を愛でて、藩主より一命を助けられた。  
その君恩に感じ後世に貢献したいと茶樹の栽培製法を研究  
し製茶に尽くし、嬉野茶の基礎を築き皿屋谷一円に広める。

1657 年(明暦 3)藩主鍋島勝茂江戸で逝去を知り、その  
君恩に報いんと 4 月辺田の自宅でお腹殉死を  
遂げた(享年 55 歳)。白石に埋葬(墓・稲佐神社)  
し追賞証授与を機に不動山寶幢院の分骨墓所  
近く、皿屋谷天神山に 1934(昭和 9)年地元茶業  
関係者により「頌徳碑」が建立された。遺徳を  
讃え 4 月『茶祖新兵衛まつり』が行われている。







